

《客観性や信頼性のある記事を書く 文例》

食品ロスを考える

日本における食品ロス量は年間五百二十万トンであると推計されています（令和二年度推計値…農林水産省ウェブサイト <https://00/00.html> 〇年〇月〇日閲覧^{えつらん}）。この現状について消費者庁などでは令和三年度に「外食時の『おいしい食べきり』全国共同キャンペーン」を行いました。その内容は、ウェブサイトやSNSによる情報発信、外食時の食べきりを推進するポスターの掲示などです。私は、これらの取り組みは啓発運動としては有効だと考えますが、実際に外食産業やスーパーなどの小売店では、食品ロスに対してどのような取り組みを行っているのか気になり、調べてみました。

まず、全国にチェーン展開しているスーパーマーケットでは、米や紅茶、コーヒー豆などをグラムからの量り売りにしていることがわかりました（〇〇スーパーのウェブサイト <https://00/00.html> 〇年〇月〇日閲覧）。この取り組みについて私は、使い残したままで消費期限を迎える食品が減るばかりか、実際に使う分だけを購入することができるので出費が減り、消費者にとってもメリットがあると考えました。

さらに、個人商店で行われている取り組みについても知りたいと思い、地域の青果店に行ってきたいてみました。すると、さまざまな取り組みがありました。例えば、大きさが不ぞろいだったり味や保存に影響のない程度のキズがついたりしている野菜を、通常より安い価格で売っているそうです。また消費期限が迫った野菜の価格を下げ、青果店のSNSでそのことを告知しているそうです。さらに、売れ残った野菜を生活に困窮している家庭やその支援をしている団体に寄付することも行っていると言っていました。

今回このように調べて、日本における食品ロスは大きな課題ではありますが、さまざまな取り組みが始まっていることがわかりました。取り組みは他にもありそうですので、引き続き調べるとともに、私もできることに取り組みたいと思います。